

バトン

心をつなぐひな人形

4年 I・Kさん

「バトン」

この題名を見たときわたしは何かピンとききました。「リレーのバトン」これがバトンという言葉を使うときの文。でも私はリレーのバトン以外の意味で使われていると考えました。それはどのような意味なのだろう？

近所の公園に行つてタイサンボクの絵をかく辻圭、サッカーが好きで人なつっこいハッサン、学校ではだれともしゃべらない白井朝子。圭のおばあちゃんの子カオルはおさないころに心ぞうの病気で亡くなり、カオルのひな人形は圭、ハッサン、朝子の手にわたりました。これを「バトン」といつているのでしょうか。また、圭はおばあちゃんの友人の柳さんから桐の木でカオルのひな人形ができています。と、それをきっかけに圭のおばあちゃんとお会ったことをきました。

桐の木からひな人形ができて、ひな人形が、圭たちの手にわたること全てを「バトン」とあらわしているのだと思います。

「バトン」

物のバトン。人のバトン。命のバトン。この本ではどの意味で「バトン」が使われているのでしょうか？

ひな人形をうけついでいく。これは、物のバトン。ひな人形といっしょに作った人、買った人、持ち主だった人も、バトン。これは人のバトン。朝子はひな人形をきっかけにおばあさんとしゃべることができました。圭はひな人形がおばあちゃん、お母さん、カオルおばあさんに思えました。ハッサンはおじさんの子どもに送りました。これは命のバトン。ひな人形を通して親しくなった朝子と圭。これは心のバトンなのだわたしは感じました。

「バトン」

きつと他にも意味があると思います。一回目や二回目などに読むときは、「バトン」に、他にどのような意味があるのか、新しい発見をして、もっといろいろな想をうをしたいと思っております。

わたしは、三人の性格がそれぞれがうのに、とても仲が良いことに感動しました。わたしはどちらかというと、自分と似た性格の人と親しくなっている気がするからです。

わたしはこの本を読んで同じ言葉、一つの言葉でも、あらわしていることは様々なんだということが気づきました。

「バトン」

それは見える物で、見えない物で、そんざいしています。だから世界中の人々はみんな何かのバトンでつながっているということに気がつきました。身近にいる人、海の向こうにいる人、世界中の人々みんなが、物が、命が、心がつながっているのではないかと思います。